

授業科目	言語発達障害Ⅲ (評価法 - 基礎)				
担当者	大谷多加志・工藤芳幸				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

対象者の発達状態を適切に理解することは、小児の言語治療を行う上で非常に重要なことである。本講では小児の発達評価に最もよく用いられる検査の1つである新版 K 式発達検査2001の実施・評価を学習することを通して、小児の発達アセスメントにおける基礎的理解を深めていく (大谷)。

後半は特に言語面の評価方法を深めていく。ここでは絵画語い発達検査 (PVT-R)、LC スケール (言語・コミュニケーション発達スケール) を取り上げ、言語学的四側面の発達の理解や言語理解・言語表出・コミュニケーションの発達アセスメントを学ぶ。また、検査結果を統合・解釈し、指導目標を設定するプロセスを学ぶ (工藤)。

## ■ 到達目標

小児の発達アセスメントに関する基礎知識の習得、および新版 K 式発達検査2001の概要と実施・評価の学習 (大谷)。

小児の言語・コミュニケーション発達に関する評価法および指導目標設定についての基礎知識の習得 (工藤)。

## ■ 授業計画

- 第1回 発達アセスメントの意義と留意点 (大谷)
- 第2回 新版 K 式発達検査の概要 (大谷)
- 第3回 検査の実施手順と評価① 乳児 (大谷)
- 第4回 検査の実施手順と評価② 幼児 (大谷)
- 第5回 検査の実施手順と評価③ 幼児 (大谷)
- 第6回 検査の実施手順と評価④ 幼児 (大谷)
- 第7回 検査結果に基づく発達評価と助言、支援① (大谷)
- 第8回 検査結果に基づく発達評価と助言、支援② (大谷)
- 第9回 事例から考える発達評価・発達支援 (大谷)
- 第10回 ことばの理解に関する検査法 (絵画語い発達検査：PVT-R) (工藤)
- 第11回 LC スケール (言語・コミュニケーション発達スケール) の概要 (工藤)
- 第12回 LC スケールの実施手順と評価① 幼児期前半 (工藤)
- 第13回 LC スケールの実施手順と評価② 幼児期後半 (工藤)
- 第14回 検査結果の統合と解釈および指導目標設定① (工藤)
- 第15回 検査結果の統合と解釈および指導目標設定② (工藤)

## ■ 評価方法

授業後のショートレポート (100%) によって評価する (第1回～第9回、大谷)。講義時間内に実施する提出課題 (100%) により評価する。(第10回～第15回、工藤)。科目全体の最終的な評価は大谷担当分で60%、工藤担当分で40%とする。

## ■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

必要に応じて講義中に指示をする。

## ■ 教科書

書名：新版 K 式発達検査2001実施手引書

著者名：生澤雅夫・松下裕・中瀬惇（編著）

出版社：京都国際社会福祉センター

書名：新版 K 式発達検査2001実施手引書

著者名：生澤雅夫・松下裕・中瀬惇（編著）

出版社：京都国際社会福祉センター

## ■ 参考図書

書名：言語・コミュニケーション発達の理解と支援プログラム -LC スケールによる評価から支援へ-

著者名：大伴潔・林安紀子・橋本創一・菅野敦（編著）

出版社：学苑社

書名：新版 K 式発達検査法 2001年版 発達アセスメントと支援

著者名：松下裕・郷間英世（編著）

出版社：ナカニシヤ出版

## ■ 留意事項

第1回～第9回までの講義内では新版 K 式発達検査2001の検査用具を使用する。事前準備等については別途連絡したい。第10回～第15回までの講義で使用する LC スケール演習用の検査用紙については事前購入ではなく、講義内資料として配布する。

## ■ 講義受講にあたって